

即時OAにおける JAIRO Cloud連携機能について

国立情報学研究所

第2回即時オープンアクセス説明会

2025年2月7日 於 オンライン

NII RDCのOA加速化事業の進捗状況

図書館員が

機関の論文および根拠データを、
機関リポジトリに簡単に登録&公開できる

- 4 OAダッシュボードの機能強化（機関向け、研究者向け）
- 2 OAアシストのメール機能等の強化、APIの開発
- 6 OAアシストのポリシーDBの整備とポリシー確認機能の開発
- 7 リポジトリ（JC）でOAコンテンツを分かりやすく見せる機能
- 8 リポジトリ（JC）利用機関へのアクセスをモニタリング



研究者が

研究PJデータを、自分自身で、
または図書館を介して、
機関リポジトリへ一括登録できる

- 1 データ管理（GRDM）での査読付論文(著者最終)と書誌情報の登録機能の開発
- 2 論文と根拠データを紐づけて、メタデータをリポジトリ（JC）へ登録する機能の開発
- 3 論文登録業務プロセスの研究者と図書館の双方の負荷軽減のためのワークフローシステムの開発

政府機関が

日本のOA加速化の成果が機関ごとに確認できるようになる
日本のOS状況がわかる（G7対応含む）

- 9 CiNii Research機関向けダッシュボード
OA論文、研究データ、科研費、国際共著等に関する指標ページ構築
- 10 French Open Science Monitor日本版
（文献メタデータ取込、OA指標算出、表示ウェブアプリケーション）

本日は JAIRO Cloud連携機能 を中心に説明

JAIRO Cloud連携機能の概要

「機関リポジトリへの研究者によるセルフアーカイブ」
を実現するための機能

一部公的資金による研究成果について
機関リポジトリへの掲載義務化

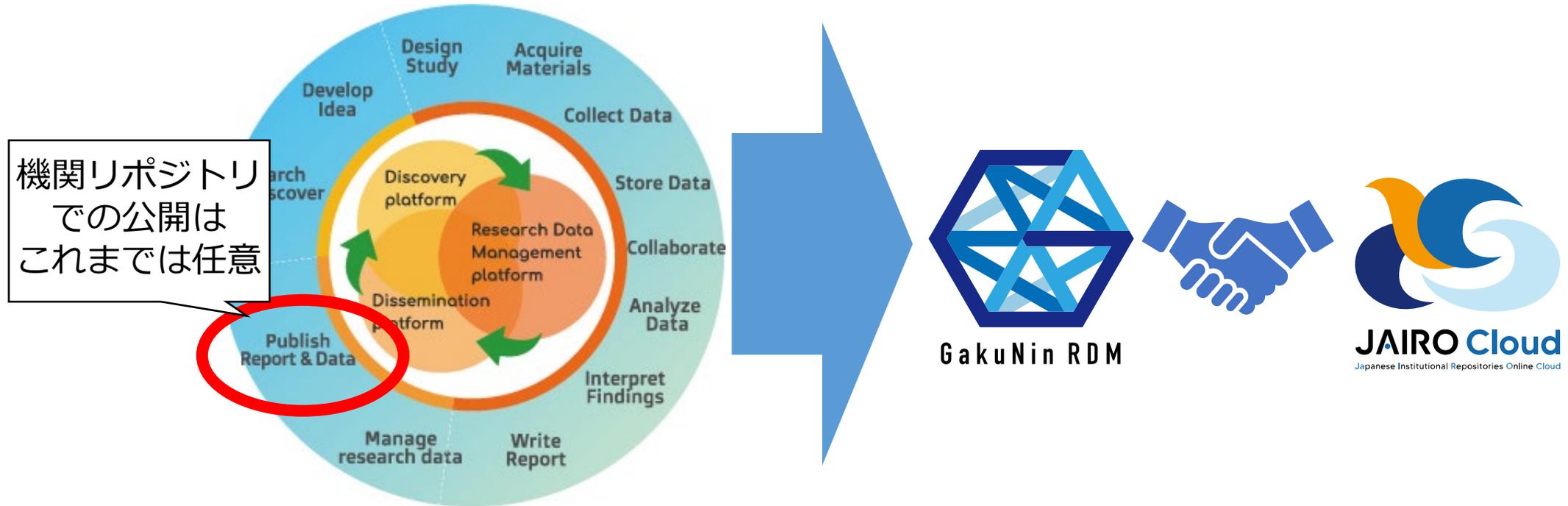


機関リポジトリへの掲載依頼が増加
図書館員を中心にした**従来の機関リポジトリ運用が困難**になることを予想

適正な運用を実現するためには研究者との作業分担が重要
= 研究者によるセルフアーカイブ

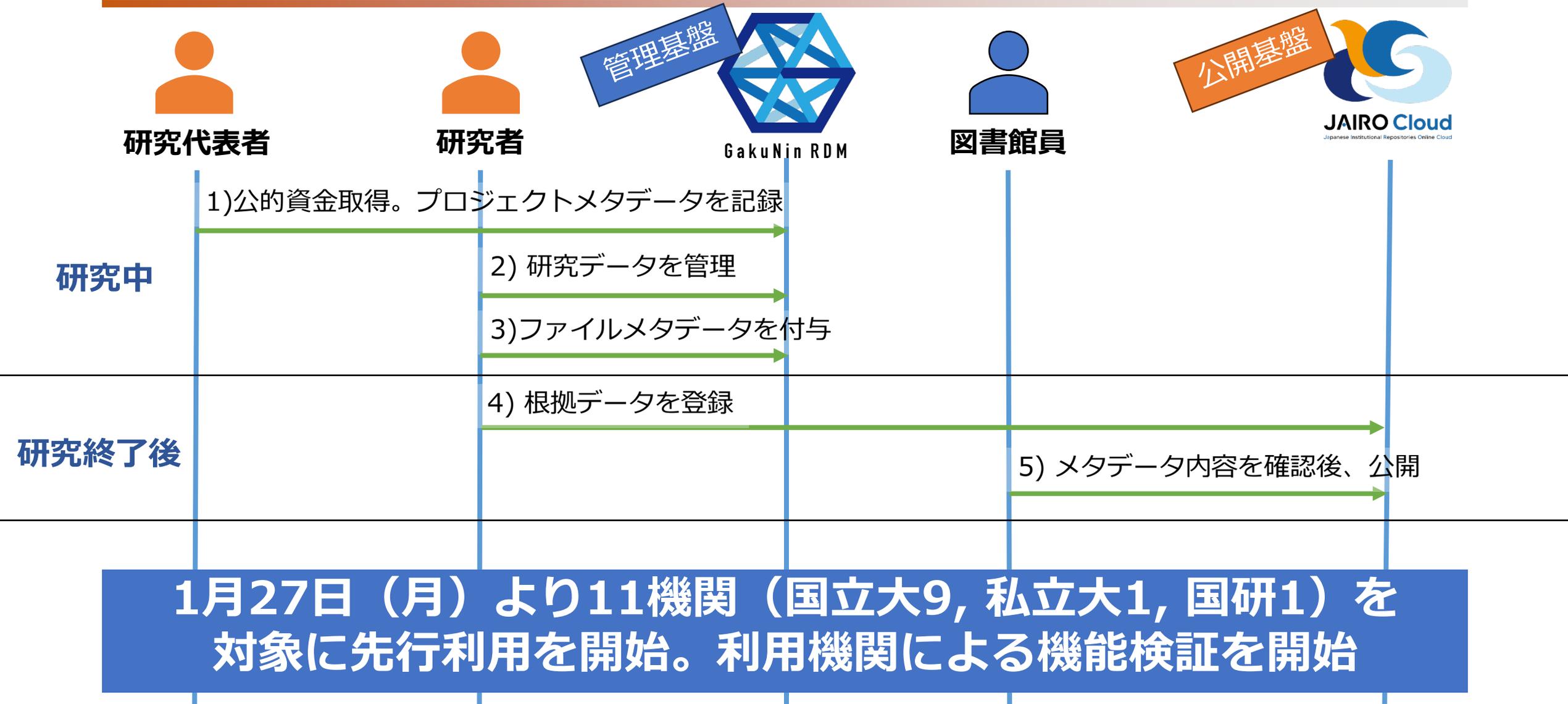
研究者によるセルフアーカイブの課題

セルフアーカイブ = (これまでの) 研究活動に含まれていない作業



研究者とのインタフェースをもつGakuNin RDMと
蜜連携することで研究活動の中でのセルフアーカイブを実現

連携システムの先行利用版（根拠データへ対応）



GakuNin RDM (GRDM) 側の 今後の開発予定

今後の開発予定（OA加速事業でのGRDM側の拡張）

研究成果の再現性を確保する機能

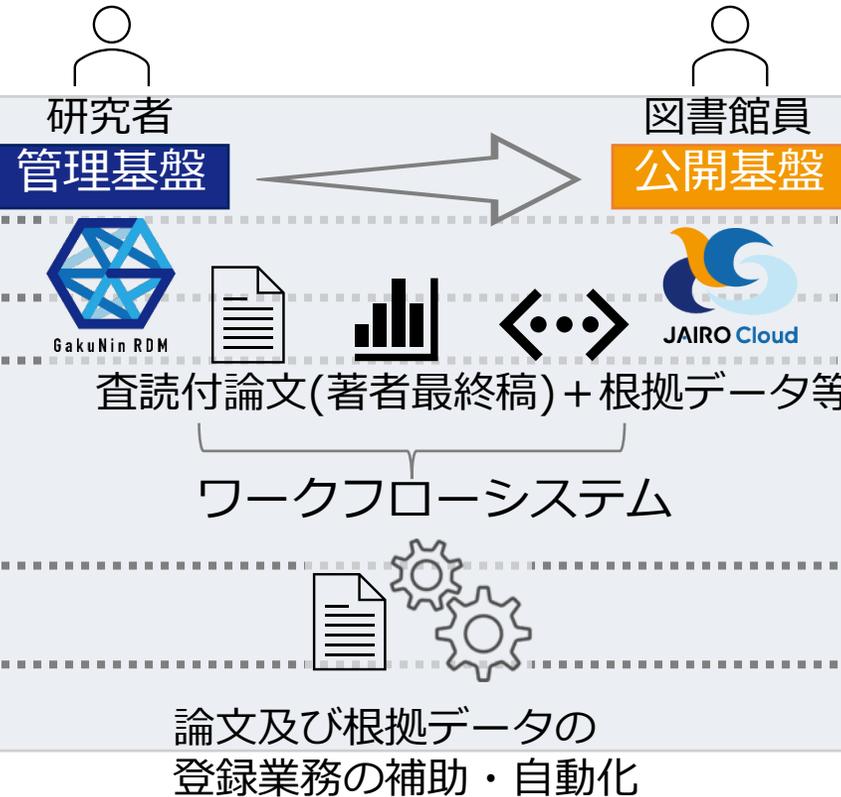
開発内容

A 論文および根拠データの登録

- 査読付論文(著者最終稿)および書誌情報の登録支援
- 論文と根拠データの紐づけ

B 論文登録プロセスの負荷軽減

- 論文登録業務の負荷軽減のためのワークフローの導入



利用者のメリット

- #### A
- 著者最終稿の収集効率化
 - 書誌情報の登録支援
 - 論文とデータ登録一元化

- #### B
- 研究者と図書館員の双方の登録作業負荷軽減

研究成果の再現性と信頼性の実現

JCと連携した「論文と根拠データの公開機能の高度化」をOA加速化事業で2024年度に開発、2025年度中にリリース

連携システムの即時OA対応（論文＋根拠データ）

2025年度提供予定



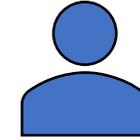
研究代表者



研究者



GakuNin RDM



図書館員



JAIR Cloud
Japanese Institutional Repositories Online Cloud

研究中

1) 公的資金取得。プロジェクトメタデータを記録

2) 論文と研究データを管理

3) ファイルメタデータを付与

論文執筆

4) 執筆論文を管理

5) 論文と根拠データの紐づけ

研究終了後

6) 著者最終稿、根拠データを登録

7) メタデータ内容を確認後、公開

現行の連携システムの根拠データ登録に加えて、
査読付論文（著者最終稿）と書誌情報を登録可能に改修

論文と根拠データの各登録パターンに対応

① 論文本体みのランディングページ

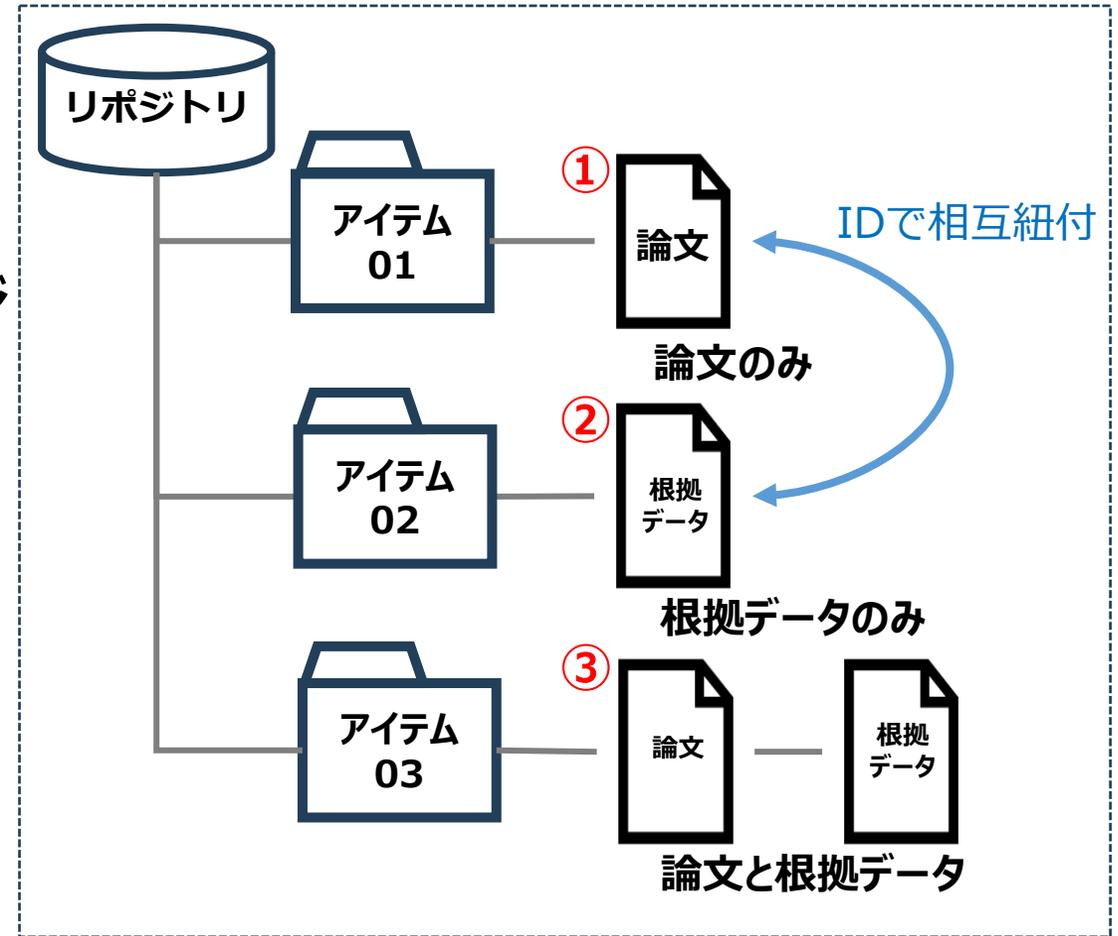
- 必須・メタデータ有
- ②の根拠データと紐づけ
- 同時送付／前送付／後送付

② 根拠データみのランディングページ

- 任意・メタデータ有
- ①の査読論文と紐づけ
- 同時送付／前送付／後送付

③ 論文本体と根拠データが同一のランディングページ

- 任意・メタデータ有
- 査読論文と一括登録
- 同時送付／前送付／後送付／送付無

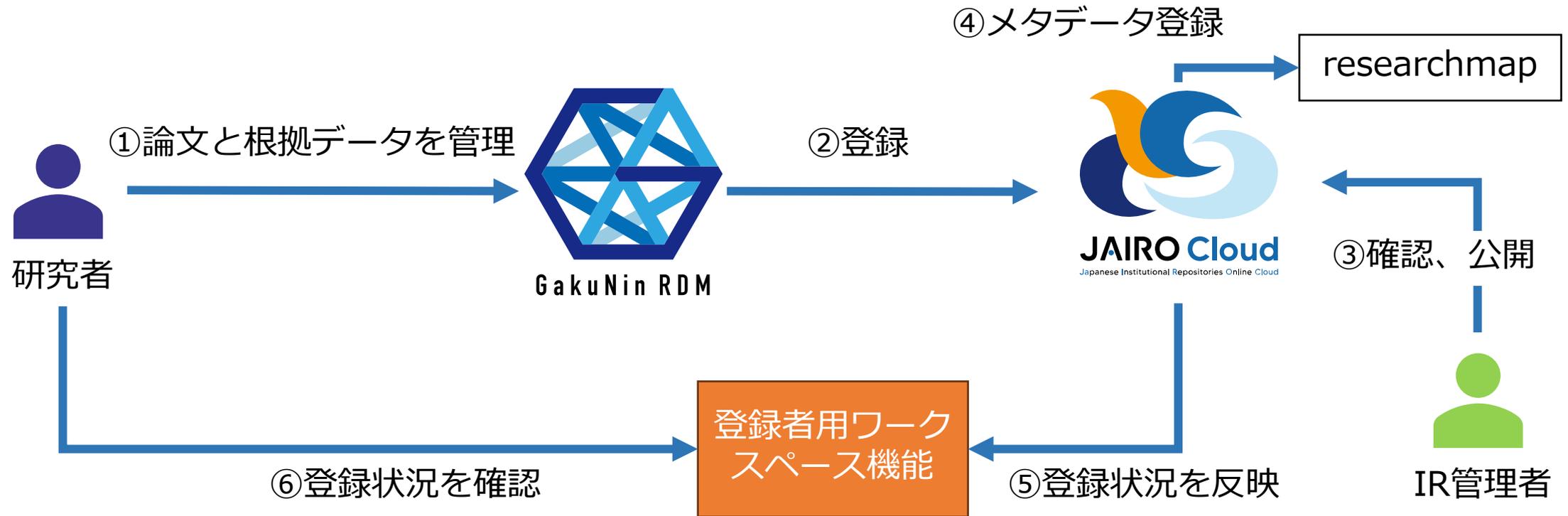


論文本体と根拠データについて、機関リポジトリへの登録有無や登録時期の後先のパターンを考慮

JAIRO Cloud (JC) 側の 今後の開発内容

JAIRO Cloud連携機能の拡張

研究者中心のセルフアーカイブを促進するための機能を開発



セルフアーカイブの促進と
機関リポジトリの運用品質の維持を目標

研究者用ワークスペース機能

研究者が自分の研究成果のリポジトリだと直感的に理解できる機能

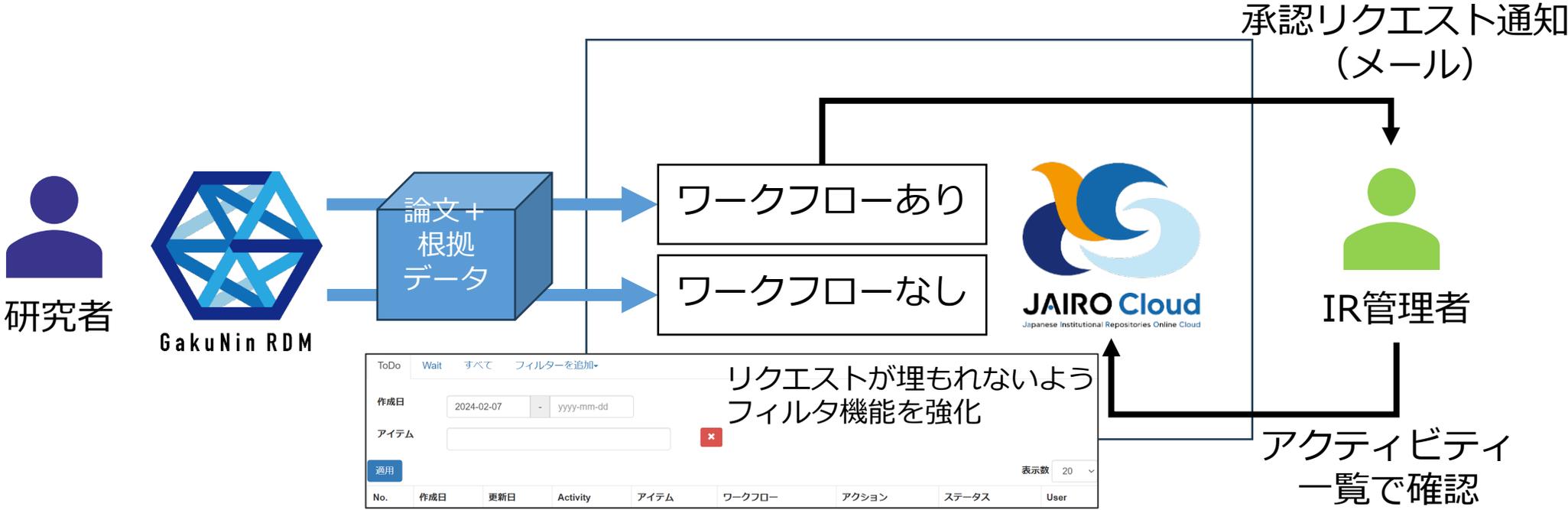
The screenshot shows a user interface for a researcher's workspace. On the left is a navigation menu with options like 'プロフィール', 'セキュリティ', 'Applications', 'ワークスペース', and 'セッション'. The main area displays a list of research papers under the name '鈴木 遼 国立情報大学'. Each paper entry includes a title, authors, and a table of statistics. Callouts provide the following information:

- JCのユーザメニューからアクセス**: Points to the 'ワークスペース' menu item.
- 研究者の研究成果の一覧表示**: Points to the list of research papers.
- OAアシスト機能と連動したOA状況ラベル**: Points to the '未連携' (not linked) label in the 'conference p' row.
- 利用統計情報**: Points to the '223' and '130' statistics in the 'book' row.

研究者自身による研究成果の把握を可能に
機関による即時OA進捗確認にも寄与

GW連携にワークフロー機能を追加

セルフアーカイブにワークフローを導入する機能

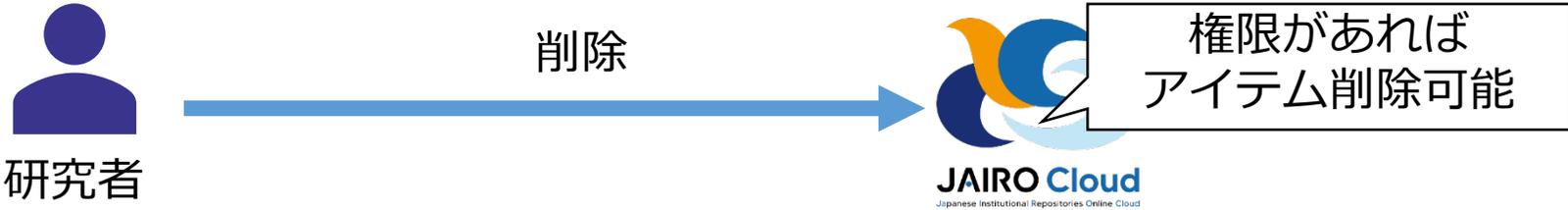


セルフアーカイブと
機関による適切な公開制御を両立できる

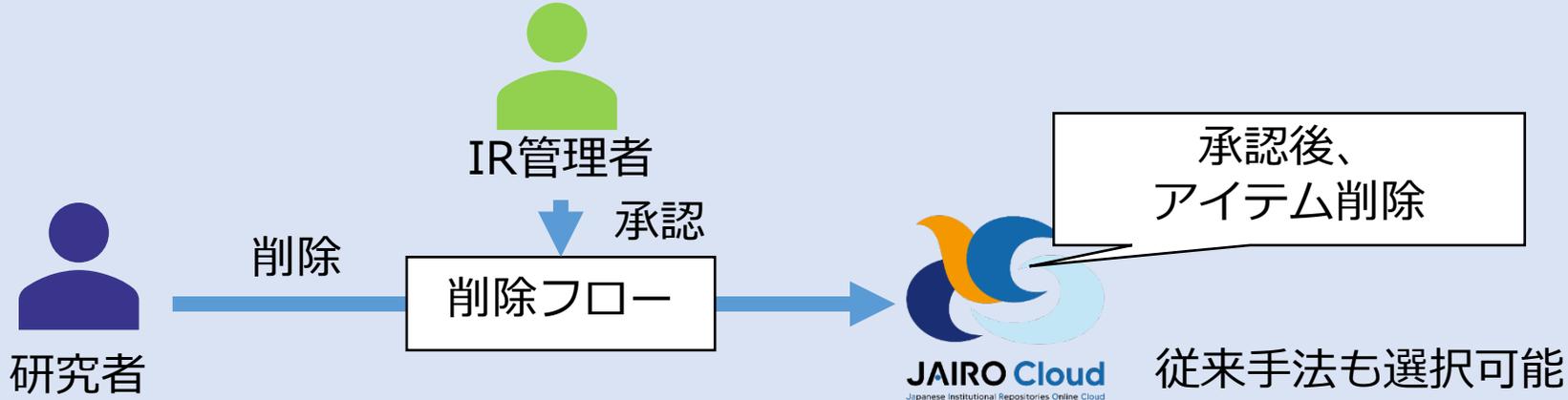
アイテム削除フローを追加

アイテム削除にワークフローを導入する機能

現状



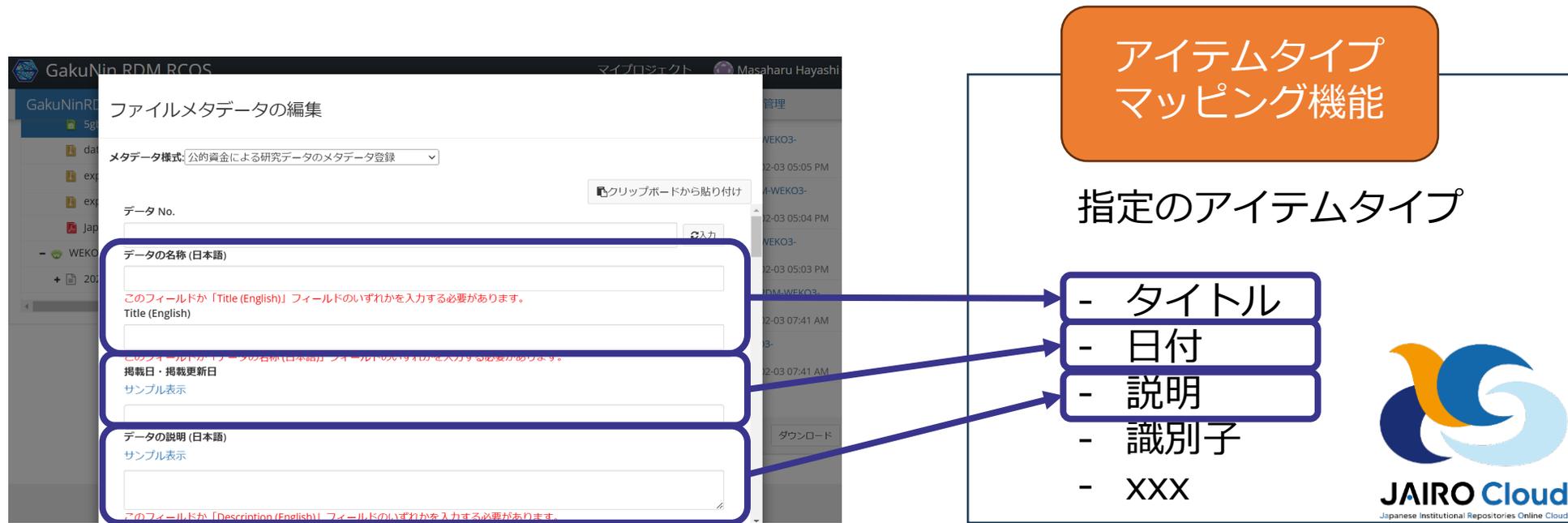
今後



公開された研究成果を
機関として責任をもって管理できる

機関のアイテムタイプ変更への対応も検討

機関が指定するアイテムタイプを
JAIRO Cloud連携で利用可能にする機能



機関指定のアイテムタイプを用いた
セルフアーカイブを実現

その他

- 一括エクスポート機能の安定化、画面表示の高速化を実現予定
- 未リリースの修正をマージ

安心して機能をご利用いただけるよう
鋭意開発中

まとめ

即時OAに対応するセルフアーカイブ機能を提供



GakuNin RDM



JAIRO Cloud
Japanese Institutional Repositories Online Cloud

研究データの管理から
公開までを支えるサービスを提供

RCOS

rcos-ext@nii.ac.jp